

# 令和6年度全国学力・学習状況調査より

## ～ 児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する 結果の分析と改善に向けた今後の取組について（中学校）～

福島市教育委員会

### 1. はじめに

福島市教育委員会では、令和6年度全国学力・学習状況調査を市教育施策に係る検証と改善に役立たせるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、学力の向上を一層図っていきたいと考えております。そこで、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

なお、本市では各校の学力調査の数値結果等について、序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、個々の学校名を明らかにした公表は行っておりません。

### 2. 調査の概要

(1) 調査日 令和6年4月18日（木）

(2) 調査対象

市立小学校43校の第6学年の全児童、市立中学校19校の第3学年の全生徒

(3) 調査内容

- 小学校第6学年 国語、算数
- 中学校第3学年 国語、数学
- 生活習慣や学習環境等の質問調査

### 3. 教科に関する調査の結果（上段：平均正答率、下段：平均正答数）

(1) 小学校第6学年（当日実施人数：1,747人）

	福島市	福島県	全国(公立)
国語	66%	66%	67.7%
	9.3問/14問	9.3問/14問	9.5問/14問
算数	61%	60%	63.4%
	9.8問/16問	9.5問/16問	10.1問/16問

(2) 中学校第3学年（当日実施人数：1,862人）

	福島市	福島県	全国(公立)
国語	60% 9.0問/15問	57% 8.6問/15問	58.1% 8.7問/15問
数学	50% 8.0問/16問	48% 7.7問/16問	52.5% 8.4問/16問

4. 今回の調査結果からわかる本市の特徴（○成果となる主な内容 ▲課題となる主な内容）

(1) 小学校第6学年

国 語	算 数
<p>○ 文章の構成を理解し、主語と述語の関係を捉えること。</p> <p>○ 読書を通して、新たな言葉や考え方を見つけること。</p> <p>▲ 自分の考えを伝えるときに、相手や目的にあわせて資料を活用すること。</p> <p>▲ 登場人物の相互関係や心情などについて複数の描写を結び付けて捉えること。</p>	<p>○ 円周の長さ、直径の長さ、円周率の関係について理解すること。</p> <p>○ 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。</p> <p>▲ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。</p> <p>▲ わる数が小数である場合のわり算の計算をすること。</p>

(2) 中学校第3学年

国 語	数 学
<p>○ 文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。</p> <p>○ 短歌の内容について、描写を基に捉えること。</p> <p>▲ 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと。</p> <p>▲ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること。</p>	<p>○ 図形が回転移動した時、回転前と回転後の図形に対応する辺や頂点を選ぶこと。</p> <p>○ 一次関数のグラフにおける傾きや交点の意味を、事象に即して解釈すること。</p> <p>▲ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。</p> <p>▲ 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較すること。</p>

# 福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

## 中学校3年国語

### 身に付いている力

- ① 文脈における語句の意味を理解し、主張と例示との関係を捉える力
- ② 描写を基に、短歌の内容を豊かに捉える力
- ③ 文脈に即して漢字を正しく書く力

### 育てたい力と手立て

- ① 資料や機器を用いて、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるように話す力

→ 自分の考えを話す際に、相手に正確に伝え、聞き手の理解をより深めるには、どのような資料や機器が必要なのか、また、それらをどのように用いれば効果的かなど、具体的な状況を想定して検討する学習を大切にしていきます。また、実際に用いた資料や機器が効果的であったかについて、聞き手と共に振り返る学習も大切にしていきます。

- ② 話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて自分の考えをまとめる力

→ 自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を整理して述べるができるようにする学習を大切にしていきます。

## 中学校3年数学

### 身に付いている力

- ① 図形の移動に着目し、図形間の関係として対称性を考察することで、移動する前後の図形の性質や関係を捉える力
- ② 一次関数の傾きや交点の意味を、具体的な事象に即して考察し解釈する力

### 育てたい力と手立て

- ① 目的に応じて式を変形して、事柄が成り立つ理由を説明する力

→ 数や図形の性質が成り立つことを説明する場面では、目的に応じてきまりに従って式を変形したり、式の意味を読み取ったりする学習を大切にしていきます。

- ② 複数の集団のデータがどのように分布しているのか、その傾向を読み取る力

→ 日常の事象を題材とした問題を解決する場面では、必要なデータを収集・整理し、データの傾向を比較して読み取り、説明するという一連の学習を大切にしていきます。

## ～中学校・生徒質問調査の結果から～

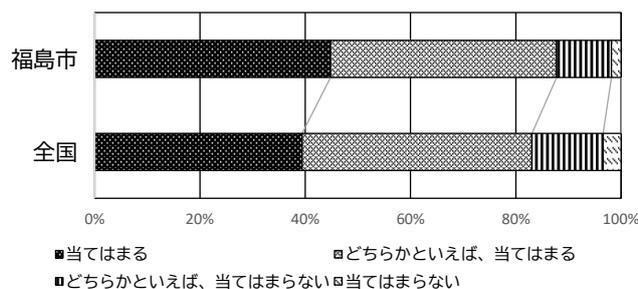
### 本市の子どもたちのよい点

#### ○ 「タブレット等ICT機器を学習で積極的に活用できる」

『(ICT機器を活用することについて) 楽しみながら学習を進めることができる』に対し、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の合計の割合は86.8%であり、全国平均を4.4ポイント上回っています。

また、ICT機器を活用することについて『友達と協力しながら学習を進めることができる』に対して、「とてもそう思う」「そう思う」が88.0%であり、全国平均を2.8ポイント上回るなど、タブレット等ICT機器を学習で積極的に活用できていることがわかります。

(ICT機器を活用することについて) 楽しみながら学習を進めることができる

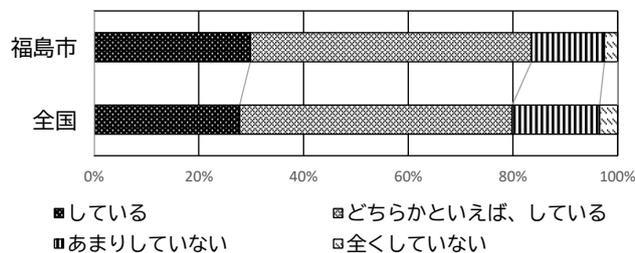


#### ○ 「学んだことを生かすことができる」

『授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計の割合は82.9%であり、全国平均を3.9ポイント上回っています。学習課題の設定の工夫や振り返りの充実を図ってきたことの成果が表れているものと考えます。

引き続き、授業における学習課題の設定の工夫と振り返りの充実を図りながら、前時までの学習内容や生徒一人一人の学習状況を生かした学びがいのある授業づくりに力を入れていきます。

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか



### 本市の子どもたちの課題

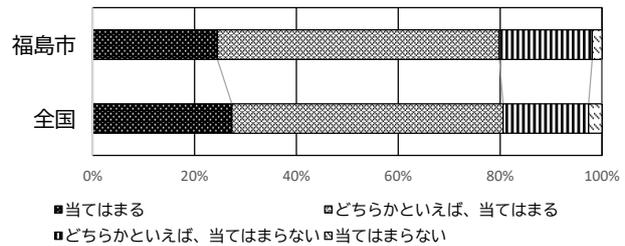
#### ○ 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」

『1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合

計割合は79.6%であり、全国平均を0.7ポイント下回りました。この質問では、特に「当てはまる」と回答した生徒の割合が24.4%で、全国平均を2.8ポイント下回りました。

生徒一人一人が主体的に課題解決に取り組むために、日々の授業で生徒の「なぜ」「知りたい」「調べたい」という思いや願いを生かし、生徒自身が「学びとる」授業に改善することができるよう、指導を工夫していきます。

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



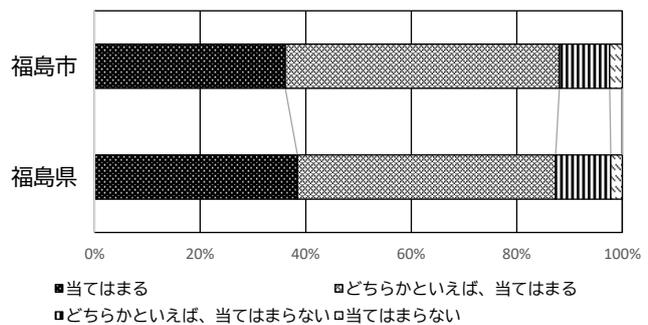
## 学級生活をよりよくするために

### ○ 「学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める」

『あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計の割合は88.0%であり、全国平均を1.7ポイント上回りました。ただし、福島県との比較では、「当てはまる」と回答した生徒の割合は36.1%で、2.2ポイント下回っています。

学級生活をよりよくするためには、生徒一人一人が学級の問題に目を向け、主体的に課題解決に取り組もうとする態度を育てることが大切です。そのためには、主体的に課題解決に取り組む経験を積み重ねていくことが欠かせません。学級活動においては、自分たちで手立てを見出し、自分たちの力で解決することができるよう、話し合う活動の充実を図っていきます。

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



## 学力向上へ向けた福島市教育委員会の取組

### ○ 日々の授業の充実に向けて

- ・ 年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問・授業研究会を通して、よりよい授業の実現に向け、個々の教員の指導力向上を図ります。
- ・ 全ての教科を対象に指導主事を派遣し、教員の授業力向上に努めます。
- ・ 各教科等の特質に応じて、1人1台タブレット端末を効果的に活用することで、学習活動の充実を図り、生徒の学習活動を支援します。加えて、家庭においても自分のペースで積極的に学習に活用できるように、タブレット端末の持ち帰りを推奨していきます。
- ・ 各中学校区の学校の管理職や学力向上担当者と共に、小中の共通の課題や学力向上策を協議し、国語や数学をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。
- ・ ALT（外国語指導助手）をすべての中学校に配置（基幹校配置）し、小学校外国語科の学習との円滑な接続を図るとともに、実際に生きた英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わわせることを通して、英語科の授業の充実を図っていきます。

### ○ 家庭学習の充実に向けて

生徒質問「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」に対し「1時間以上」と回答した本市の生徒は62.6%で、全国（54.6%）を大きく上回っており、家庭学習の習慣や主体的に学習に取り組もうとする態度が育ってきていると言えます。一方で、「2時間以上」と回答した本市の児童は14.5%と、全国（23.5%）を下回っています。生徒がさらに意欲的に粘り強く家庭学習に取り組むために、質的な向上はもとより、量的な充実を図っていきます。

本市では、「家庭学習のスタンダード(福島市版)」を作成し、各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図るとともに、自らの学びをマネジメントする力の育成に努めていきます。

## 保護者の皆様へ

今回の「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになった課題の解決に向け、福島市教育委員会、学校が一体となって、引き続き、授業改善等の取組を推進してまいります。

今年度も本調査の結果から、本市の児童が家庭学習の習慣を身に付け、主体的に学習に取り組んでいることがうかがわれました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

学校と家庭がともに手を携えることで、お子さんの学力向上に向け最大限の効果が発揮されます。今後におきましても、家庭での学習習慣の確立に向け、以下の点についてご協力をお願いいたします。

- 十分な睡眠時間の確保、「早寝、早起き、朝ご飯」、テレビやゲーム、スマートフォンの利用時間や利用方法等についての話し合い（ルールに基づいたメディアコントロール）など、望ましい生活習慣の確立が不可欠です。
- お子さんが「時間を上手に使い、自分に合った集中できる場所で」落ち着いて学習できる環境を整えることが大切です。その際、十分な家庭学習時間が確保できるよう、生活リズムの改善などについてご助言をお願いします。
- お子さんの努力やその成果を大いに褒めてあげてください。ご家族の温かい言葉や励ましが、新たな学びに向かう意欲や自信につながります。
- お子さんが自分自身で意思を決定する場面を積極的につくることで、主体的に考え、新しい考えを生み出そうとする意識や態度を養うことにつながります。
- 中学3年生は高校入試を半年後に控え、精神的に不安定になる傾向にあります。困りごとや不安があるときに、日ごろからいつでも相談できる関係づくりが大切です。